



FC岐阜

株式会社岐阜フットボールクラブ

代表取締役社長 宮田博之

連載Vol.

71

藤谷 匠 選手・窪田 稜 選手・大野 哲煥 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
17
DF 26歳

兵庫県神戸市出身で両親と弟と妹の5人家族、愛称は“たくみ”。2018年神戸学院大学を卒業し、FC岐阜に加入して、今シーズン4年目の選手である。最初の2年間はJ2リーグで19試合に出場し、昨シーズンはJ3リーグで25試合出場、今シーズンは21試合(第26節終了時点)に出場している。昨シーズンは途中出場が多かったが、今年はすべてが先発出場となっていて、信頼の厚さを物語っている。

当初は長所の身体能力の高さに頼っていたが、全体を見ながら守備ができるようになるなど、徐々に課題を修正できており自分の成長を感じている。おしゃべりで明るくチームメイトすべてが友達感覚だが、サッカー以外では節度を持って接するよう心掛けている。「チャンスはいつも今」を座右の銘として、いつチャンスがあるか分からない中でも自在に対応できる柔軟性は今後の一層の飛躍が期待される。まずはチームのJ2昇格が目標であり、その先の夢は日本代表選手になることである。

2歳下の弟もJリーガーで、ヴィッセル神戸で活躍し、今シーズンからはギラヴァンツ北九州で活躍中。ご両親と妹は折に触れて、北九州へは新幹線で、岐阜へは車で東西への応援の旅を楽しんでいるという。今シーズンはコロナ禍で八百津町、七宗町、川辺町への応援大使の活動があまりできなかったが、来シーズンは試合はもちろんのこと様々なイベントでも活躍が期待されている。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
19
MF 20歳

千葉県松戸市出身で両親と4歳下の弟との4人家族、愛称は“りょう”。東京の成立学園高校からツエーゲン金沢でプロ選手をスタートし、2年半で47試合に出場。今シーズン途中からFC岐阜に期限付きで加入した。金沢では知っている選手が誰もおらず、皆が泥臭く必死にプレーする中で、まだ技術的にも不十分な状況で馴染めなかったが、2年目からは多くの出場機会を得て学ぶことも多かった。FC岐阜では夏の途中移籍であったが、有名選手や名前を聞いて知っている選手も大勢いたうえに、皆がフレンドリーに可愛がってくれるので直ぐに溶け込むことができ感謝している。同い年の村田選手とは特に親しく、三島選手、甲斐選手、川西選手などとも親しくしている。チームは技術的に高い選手が多く、想像しないようなパスが出るたびに多くを学んでいるが、このチームは既にJ2にいるべきチームだと思っている。

夢は、J1でプレーするプレイヤーになることだが、高校時代に育てて頂いた3人の監督がそれぞれ素晴らしい方々であったので、自分もいつかあのように素晴らしい監督になりたいと思っている。

父親もサッカーをしていたので試合後には必ずネットで試合を見た講評やアドバイスのメールを貰っており、いつも感謝している。性格は明るく、家族や多くの友人を宝と思っている好青年の将来を大いに期待している。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
31
GK 28歳

島根県浜田市出身で両親と兄との4人家族、愛称は“チョル”。6歳からサッカーを始め、高校からは県外のサンフレッチェ広島ユースで育った。大学からはサッカー強化を目指す千葉県東金市にある城西国際大学に入学した一方、1年生からジェフユナイテッド千葉の練習生として研鑽に励み、4年生の時に特別指定選手に認定され、同大学から初のプロ選手としてジェフユナイテッド千葉に加入した。今では同大学出身の5人の選手がプロとして活躍している。

ジェフユナイテッド千葉は素晴らしい環境下であり、徹底的に基本を叩き込まれ今日の自分があると思っている。その後の栃木SCでの1年間は厳しい環境ながらいろんな人との出会いがあって勉強になった。

FC岐阜には能力の高い選手が揃っているのを昇格すべきチームだと思っている。残り4試合のトーナメント(負けたら終わり)の状況で皆が緊張感を持って練習に励んでいる状況にあり、昇格できると確信している。自分も勝利に貢献して、J1でプレーすることが夢である。

岐阜は金華山と清流長良川の城下町で今までで一番気に入っている街だが、今はコロナ禍なのであまり出かけられなくて残念に思っている。9割以上自炊しているので料理の腕は上がったが、たまの外食以外に外出できていないのが現状である。高山市の応援大使にもなっているので、今後は積極的に外に出て岐阜全体も良く知ってまちのPRにも役立ちたいと思っている。